

令和5年度第4回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日 時

令和6年3月29日（金） 午後1時30分から午後2時24分

2 場 所

青梅市役所 議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

[出席委員]

菊池 一夫 委員
手塚 幸子 委員
下野 剛 委員
本橋 大輔 委員

川合 純 委員
宇津木 順一 委員
松永 初音 委員

清水 久員 委員
岩浪 岳史 委員
築地 夏美 委員

[出席青梅市職員]

大勢待市長以下10名

4 議事概要

(1) 市長あいさつ

(2) 委員長あいさつ

(3) 議題

ア 令和5年度青梅市行政評価に対する外部評価結果のまとめについて

前回委員会で行った外部評価結果をまとめた報告書（案）にもとづき、内容の説明と確認を実施した。 【DX推進課長説明】

イ 委員による意見交換の実施について（テーマ決め）

「デジタルを活用した市民サービスの将来像」を主題とし、次回意見交換を行う際のテーマを「情報発信」と決定した。 【DX推進課長説明】

(4) その他

・次回委員会は、委員長と調整の上、令和6年5月頃の開催予定。

5 主な意見等

○ 意見交換のテーマについて

・人口減少という中で、創業支援等にデジタルを絡めて何かできるのではないかと考える。

・若い人から年配者まで、デジタルの得手不得手によって情報を受け取れる差が生じてしまう点が懸念であり、誰にでも網羅的にサービスを提供できる必要がある。

・今の青梅市では、人口増に繋がる取り組みが不可欠であり、生活環境や文化的な面

の向上といった観点でのサービスが求められる。

- ・自治会活動においてもデジタルを活用した情報共有が必須と感じるものの、そういったものへの拒絶感でアプリを入れてもらえないという現状もある。
- ・子育て応援でも、自分が得られるサービスに簡単にたどり着けるような仕組みにしていく必要がある。
- ・デジタル活用の実態を把握することが大事である。
- ・デジタル化が進み、様々な面で便利になっているものの、その便利さを全ての人が享受できるよう、不得手とする方々への支援が根本的に必要であると感じる。
- ・青梅市は市域が広く、デジタルにより移動せずに済むことが増えるのは利点である。
- ・教科書のデジタル化等、学校教育において効果的な学習活動が進められるのも利点であるが、実際どのような効果があるのか分析する必要がある。
- ・デジタルに一本化することは難しく、ついていけない方に対してフォローしていくことが必要である。
- ・スマートフォンを介して犯罪に巻き込まれるケースも増えてきており、特に高齢者向けの教育も必要である。
- ・情報発信について、ホームページと広報配布からもう一步進むために活用できるデジタル技術について検討するのが良いと考える。
- ・情報発信については、発信する側と受け手側と両方の問題が含まれており、両方の問題について、議論していきたい。
- ・市が発信する情報のデジタル化と、情報を受け取りやすいユーザーフレンドリーな戦略を考えていくことは必須である。
- ・市から発信情報を発信していく上で、そこに話題性や、見たい気持ちが高まるエンターテインメントの力を借りたような発信をすることで、デジタルに不得手な人に壁を越えていただけるのではないかと考える。
- ・情報を見ることによって、お得であるという感覚が生じることがサービス利用を喚起する要因になり得ると考える。
- ・デジタル化が進む中で、情報の根拠についても、フェイクであったり、偏向的にならないように整理をする必要がある。情報漏洩についても注意が必要である。
- ・有名人のなりすましや、銀行やカード会社を装った巧妙な詐欺などに対し、そういう危険性を知らせていくことも必要である。

【質問】 青梅市のSNSからは様々な情報発信がされており有益と考えるが、今現在、どの程度の方に登録されているか。登録者を増やすためにどのような取組をしているか。

【回答】 青梅市の公式LINEについては、登録者数が約40,000人、X（エックス）については、フォロワー数が約4,000人となっている。なお、LINEについては、新型コロナワクチンに関する情報発信の時期に、多くの方が登録された経緯がある。

【まとめ】 次回の委員会では、「デジタルを活用した市民サービスの将来像」を主題として、「情報発信」をテーマに意見交換を行っていただくこととしたい。

以 上